

東京会議所

此約定書ニ訂ヤテハ商法ニ體ヤ苦シ微難生スル有ヘタモ既矣少々ハノル事味東京別缺事ニ擬スル

葉子采

印

渋沢栄一印

大倉喜八郎印

此約定書ハ之ヲ三通ニ認メ堀通ハ東京府庁ニ差上堀通ハ會議所ニ堀通ハホウキツニ一氏ニ所持イタシ候也
並ヘ各ヨリ於ニ領地モトドレ「誠ムニ」印

森有礼と東京會議所 この方も同日付でとりむすばれたものである。又ヨリ誤スル有ヘ其誤スル見

マニ商法講習所取設ニ付森有礼ト東京會議所トノ約定書

明治八年九月十三日商法講習所へ教員トシテ米人ホウキツニ一氏ヲ傭入ノ事件ニ付東京會議所ト森有礼トノ

間ニ左ノ件ミヲ約定セリ

ナシノ印

第一項条

一 商法講習所ハ森氏私立学校ニシテ福沢諭吉箕作秋坪兩君其相議者ト為り此所轄ハ右三名ノ協議ニ歸ス而ベ向
後此講習ノ順序費途ノ都合及ヒ永続ノ方法等ハ勿論何様ノ事故出来スルトモ凡テ起立人ノ責任タル可キ事

東京會第ニ二十二条發祥ニ趣スヘ代ヘ限ニ拙謹入ニ甘ホウキツニ一氏ヲ支拂スル「セム小印」

東京會議所ハ此商法講習所助成ノ為メ米人ホウキツニ一氏ヲ傭入教員トシテ差出候ニ付同氏ノ給料堀ヶ年式
于千五百円宛ト定メ傭年限中ハ會議所ヨリ出金支給候事

前入手述ヘ開示八半期キ一千八百三十武半葉五良廿四同十三年六月宣誓正ハ平日本金庭

附 第三条 入ホウキツニ一榮恭好大輔申出ハ體承候事ニ効願求拂申請對照著手印書ハ次条跡へ風文ニ
附講習所取建ノ地所四千四百七十四坪合五勺五抄會議所ヨリ無地税ニテ五ヶ年ヲ一期トシテ起立人ヘ貸渡ス
ヘシ右満期ノ節尚永続ヲ望マハ双方協議ノ上之ヲ定ム可シ尤モ此地所ヲ使用スルハ商法講習所ノ為メノミニ
限ル可シ

第四条

教員傭年間中ハ講習所冗費ノ廉ト堀ヶ年金五百円宛會議所ヨリ出金候事 所 大 久 梅 一 錄

第五条

講習所ノ為メ万一千費途相嵩ミ候歟或ハ教講上ニ付紛糾出来候共會議所ヨリハ前条制限ノ外一切出費致サハル
事

ホナ 第六条 入承狀不付引じて東京別缺事ニ付資首へ頒發ひざる。

講習所起立人ハ教場ノ模様生徒ノ多寡經費ノ計算等ヲ詳記シ毎月一度會議所へ報告書ヲ差出シ其場ノ実況ヲ
具申スヘキ事年未分類開示一の單納ひじるお闇角面へひるひるひるひるひるひるひるひるひるひるひるひる
モテシ

東京會議所

ホウキツニ一榮恭好大輔平賀五〇〇円ヲ薪費平賀五〇〇円ヲ大倉喜八郎印
附右備人院備用事務の實行に在る森有禮印

此約定書ハ之ヲ三通ニ認メ堀通ハ東京府庁ニ差上堀通ハ會議所ニ堀通ハ森氏ニ所持イタシ候也